【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成26年8月21日(2014.8.21)

【公開番号】特開2012-46498(P2012-46498A)
【公開日】平成24年3月8日(2012.3.8)
【年通号数】公開・登録公報2012-010
【出願番号】特願2011-160922(P2011-160922)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｋ　31/192　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　 9/08　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　47/12　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　47/02　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　29/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｋ　31/192
Ａ６１Ｋ　 9/08
Ａ６１Ｋ　47/12
Ａ６１Ｋ　47/02
Ａ６１Ｐ　29/00

【手続補正書】
【提出日】平成26年7月8日(2014.7.8)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１５】
以下に実施例、比較例及び試験例を挙げ、本発明をさらに詳しく説明する。
表１、表２に実施例、表３に参考例、表４に比較例を示した。実施例１～６、１１～１６、参考
例１～６、比較例１～４は、ロキソプロフェンナトリウム、塩化カリウム、酒石酸、及び鉄またはマグネシウムを精製水に溶解し、塩酸、及び水酸化ナトリウムを用いてｐＨを調整し、精製水を加えて全量を30ｍＬとし、ガラス瓶に充填しキャップを施して内服液剤を得た。実施例７、８にはロキソプロフェンナトリウム、塩化カリウム、酒石酸および鉄、さらにリボフラビンリン酸エステルナトリウムを精製水に溶解し、塩酸、及び水酸化ナトリウムを用いてｐＨを調整し、精製水を加えて全量を30ｍＬとし、ガラス瓶に充填しキャップを施して内服液剤を得た。実施例９、参考例７、および比較例５は、ロキソプロフェンナトリウム、塩化カリウム、酒石酸、及び鉄またはマグネシウムを精製水に溶解し、塩酸、及び水酸化ナトリウムを用いてｐＨを調整し、精製水を加えて全量を10ｍＬとし、ガラス瓶に充填しキャップを施して内服液剤を得た。比較例６はロキソプロフェンナトリウム、塩化カリウム、酒石酸、砂糖を精製水に溶解し、塩酸を用いてｐＨを調整し、精製水を加えて全量を30ｍＬとし、ガラス瓶に充填しキャップを施して内服液剤を得た。実施例１０はロキソプロフェンナトリウム、塩化カリウム、酒石酸及び鉄、さらに砂糖を精製水に溶解し、塩酸を用いてｐＨを調整し、精製水を加えて全量を30ｍＬとし、ガラス瓶に充填しキャップを施して内服液剤を得た。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２０

【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２０】
試験例
試験方法
25～40歳までの4人をパネルとして、試験液約20ｍＬを服用し、調製直後のロキソプロフェンの不快味について評価した。なお、一つのサンプルを評価した後は、温湯で口中をすすぎ、十分経過してから次の試験液の評価を行った。
評価基準
実施例１～３、実施例７、８、１０～１６、比較例６の評価は鉄を配合していない比較例１との相対評価を行い、実施例４と参考例４は比較例２、実施例５と参考例５は比較例３、実施例６と参考例６は比較例４、実施例９、参考例７は比較例５との相対評価を行った。
評価は、それぞれ比較例の評価点を０点とし、比較例に比べ、「非常に弱く不快味を感じる」を－３点、「弱く不快味を感じる」を－２点、「やや弱く不快味を感じる」を－１点、「同等に不快味を感じる」を０点、やや強く不快味を感じる」を1点、「強く不快味を感じる」を２点、非常に強く不快味を感じる」を３点とし、結果を平均値で求め、表４～６に評価点として示した。